

中 村 義 一

中村義一氏は、1947年16歳から東京天文台（現国立天文台）に勤務。技官として機材修理の仕事の中、当時最先端の精密機器である天体望遠鏡や水晶時計を分解・組立て・描写をすることにより精密機器の構造や設計技術を学んだ。1966年三鷹光器(株)設立。天体望遠鏡の開発から出発し、人工衛星搭載用観測機器を数多く製作、X線天文学やオーロラの発生メカニズムの解明に寄与した。また1988年より「便利なものより必要なもの、人の役に立つものをつくる」との信念のもと医療機器業界に進出、多くの患者を救っている。また、1992年からレーザプローブ式非接触三次元測定装置を開発・製造。これらの製品は2007年に日本機械学会より優秀製品賞、2014年には精密工学会より技術賞を受賞しており、この測定原理は2014年にポイントオートフォーカス法と命名され、ISOから公布された。

中村義一氏について特記すべきことは氏の「ものづくり職人哲学」であろう。全国各地で「世界の大企業と渡り合う“町工場”の成功秘話」を講演し中小企業の人々を鼓舞してきた。著書に『社員は、この「型破り」教育で伸ばせ!』『お金は宇宙から降ってくる』がある。

2006年天皇陛下の行幸を受け、精密機器のものづくりの業績を讃えられ「旭日双光章」を受章。

天文機器の開発や製造に留まらず、その技術を応用し“人の役に立つ”医療機器や産業機器を国内外に提供しており、その功績は極めて大きい。



略 歴

- 1946年 三鷹第二高等小学校卒業
- 1947年 東京大学東京天文台勤務
- 1952年 府中光学研究所入社
- 1960年 有限会社三鷹光機製作所設立 監査役就任
- 1966年 三鷹光器株式会社設立 代表取締役就任
- 1994年 代表取締役会長就任 現在に至る
- 2001年 第20期東京都産業教育審議会委員
- 2006年 秋の叙勲「旭日双光章」受章